

白滝ジオパークの見どころとコース別案内書作成の試み

The highlight of SHIRATAKI geopark and trying to prepare the guidebooks for a guide of geosites

米島 真由子^{1*}, 加藤 孝幸¹, 岡 孝雄¹, 和田 恵治², 熊谷 誠³

Mayuko Yonejima^{1*}, Takayuki Katoh¹, Takao Oka¹, Keiji Wada², Makoto Kumagai³

¹ アースサイエンス 株式会社, ² 北海道教育大学旭川校地学教室, ³ 遠軽町ジオパーク推進課

¹Earth Science Co., Ltd. JAPAN, ²Hokkaido Univ. of Education, Asahikawa, ³Engaru town office

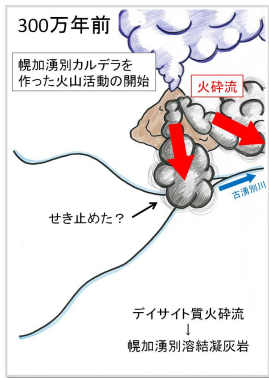
【1. 白滝ジオパークの主テーマ】2010年に日本ジオパークに認定された白滝ジオパークは、質・量において国内最大級の黒曜石原産地であり、露頭が6ヶ所確認されている。そのうちの4つがジオサイトとして整備されつつある。日本において黒曜石露頭は非常に少ないため、たいへん貴重なジオサイトである。黒曜石の種々の産状から流紋岩の活動やカルデラ形成との関係で黒曜石の成因を説明すること、黒曜石石器と旧石器人の氷期の生活環境を紹介することなどがこれまでの調査研究で可能となった。

【2. 白滝ジオパークのサブテーマ】白滝ジオパークには黒曜石のほかにも、みごたえのある貴重なジオサイトが多数存在する。代表的なものとしては、日高帯をつくる白亜紀～古第三紀の付加体堆積物やこれに貫入する古第三紀の花崗岩、北半球の2つの巨大大陸プレートであるユーラシアプレートと北米プレートのかつての衝突境界（上支湧別構造線；長谷川ほか，1961；木村・熊ノ郷，1987）や日高山脈形成に関わって形成された上支湧別構造帯（白滝構造線；長谷川ほか，1961；木村・熊ノ郷，1987）など、北海道形成に関わる構造線の通る地域であることに由来する断層など、紋別-上支幌地溝帯（八幡，1997）と呼ばれる金属鉱床を含む新第三紀の火成活動帯の産物、黒曜石を伴う流紋岩や火砕流を多量に噴出したカルデラの堆積物、風穴と現在の植生の関係から、氷期の自然環境を紹介するジオサイトなどがある。これらを通じて、白亜紀～第四紀のダイナミックな地球の変動の一端を見学することができる。

【3. 見学案内書「支湧別川コース」見学案内書】白滝ジオパークは上記のように地質時代と地質現象が多岐にわたる。地質にほとんど触れたことのない人にも、白滝の変化に富んだジオサイトに触れて地球の雄大さを感じてもらいたい。そこで我々は、いくつかの見学コースを用意し、それぞれについて案内書を作成することとした。この際の考え方は、以下のようなものである。ガイドブック・ガイドマップには3つの段階がある（渡辺，2010）とすれば、まず必要となるのは「最初の入り口」レベルのものだろう。しかし、いきなりこのレベルにたどり着くのは困難である。とはいえ従来よくあった「わかり易くつくったつもりでも結局専門家しか見向きしないもの」は、初めから避けなくてはいけない。すなわち、極力分かり易く努力するが、「内容が正しく伝わることを重視するもの」を最初につくるという方針である。コースごとのガイドブックとし、その中でジオサイトのほか、専門用語や知識、ウンチクを図や写真を多用して説明する。引き続き、「読んでもらえない詳細で正確な説明より、中身が足りなくとも読者の関心を惹き読んでもらえる説明が、地球科学の入り口として必要である」（渡辺，2010）の段階へ進む。これは現在作成しつつあるコース案内書をたたき台として作成する。

現在、準備しているコース案内書のうち「支湧別川ルート（仮称）見学案内書」作成について紹介する。支湧別川ルートは遠軽町の白滝地区に位置する。白亜紀～第四紀の広い時代のジオサイトが存在し、白滝ジオパークのサブテーマのほとんどを網羅するコースとなっている。この支湧別川ルートを含め、白滝のジオサイトで見学できる多くの地質現象は、「静止」していたり、巨大なスケールの現象のごくごく一部が見えているというものが多い。例えば火山の噴煙のような、目に見える動きがほとんどない。また地質学で扱う時間のスケールが、実生活に比べあまりにも大きい。そのため地質に親しんでいない人がジオサイトへ見学に行っても、何をどう見てよいのか、そのジオサイトから何が言えるのかがまったく分からなく、楽しめない。過去にどういうことが起こったのかのイメージが膨らまなく、地球科学に親しみを感じてもらうこともできない。そこで案内書を読む人が地質現象をイメージしやすいよう、文章による長い説明は避けて単純で明快な図を作成することに重点を置いた。具体的には、入門編で使用することを想定し、1つの図に盛り込む情報をできるだけ絞った図の作成を心掛けること、マンガのように動きが感じられるように工夫することである。作成した図の1つを例として掲載する。

白滝ジオパークには魅力あふれるジオサイトがたくさんある。その魅力を広く伝えるために、関心の度合いに応じた案内書などの作成が必要である。今後、作成した見学案内書を実際のジオツアーなどで活用し、その中で内容にいつそう磨きをかけていくことが重要である。



キーワード: 白滝ジオパーク, 黒曜石, 見学案内書
Keywords: SHIRATAKI geopark, obsidian, guidebook